

オオサンショウウオかるた 解説

	かな	漢字	解説
あ	あかちゃんみたいなかわいいて	赤ちゃんみたいなかわいい手	ぶりぶりしていて、赤ちゃんみたいな手とよく言われます。チャームポイントの1つです。かわいい手をしていますが、強い力でふんばり、川の流れにも逆らって移動することができます。
い	いぼがたくさんある	イボがたくさんある	主に頭部にはたくさんのイボがあります。1個体ずつそれぞれ場所も大きさも違います。幼生（子ども）の頃にはなく、大きくなるに連れて目立つようになってきます。
う	うるとらまんとたたかった	ウルトラマンと戦った	ウルトラマンA第47話「山椒魚の呪い！」で、液汁超獣ハンザギラン（解説：「は」ハンザキはオオサンショウウオの古い名前）として登場しました。夜行性なのに、なぜだか太陽光線で巨大化します。身長は59メートル、体重は4万トンの設定です。不死身の肉体を持っていましたが、太陽光線を遮断されると、あっけなく敗北しました。
え	えさやりは1しゅうかんに1かいぐらい	餌やりは1週間に1回ぐらい	意外と少食で、飼育の場合の餌は、身体の大きさによるものの1週間に魚を1匹（数十グラム）食べれば生きることができます。自然界はいつ獲物にありつけるかわからない過酷な環境です。少食でも生きられるのが長生きの秘訣なのかもしれません。
お	おおあめだ！いそいでひなんしなくては	大雨だ！急いで避難しなくては	大雨が降ると土が混じったにおいでわかるのか、川岸や岩の上などに上陸していることがあります。増水して流されないように避難しているのでしょう。
か	かわのおうさまとよばれている	川の王様と呼ばれている	成体になると、川の生態系で天敵という天敵は自分より大きなオオサンショウウオぐらいで、襲われることはほとんどなくなります。そのせいか、ライトの光を受けても堂々としているか、ゆっくり逃げる程度です。
き	きもちわるいといわないで！	気持ち悪いといわないで！	色なのか、模様なのか、体型なのか、気持ち悪っ！って言われることが多いです。でも、よく見てみてください。大きな口、つぶらな瞳、ぷるんとした体。だんだん可愛くなってきたでしょ？
く	くらくてせまいばしょがすき	暗くて狭い場所が好き	夜行性のため、昼間に見かけることはあまりありません。明るい時間帯は、じっと岩や土手の下の隙間などに隠れて暗くなるのを待ちます。
け	けんかはいつもいのちがけ	喧嘩はいつも命がけ	繁殖の時期に特に多いのがオス同士の喧嘩です。大きい口で相手に噛み付き、体を回転させて攻撃します。ときには死んでしまったり、丸飲みされたりすることもあります。

こ	こおるほどつめたいかわでもげんき	凍るほど冷たい川でも元気	暑いのはあまり得意ではありませんが、川に薄く氷が張るようなマイナス5℃ぐらいの気温でも出てくる個体があります。冬になると多くの両生類は冬眠しますが、オオサンショウウオは冬眠しません。（参考：「せ」世界最大の両生類）
さ	さっきからずーっとおなじしせい	さっきからずーっと同じ姿勢	水族館などで見るとよくわかりますが、何時間も同じ姿勢のままなかなか動きません。
し	しんじゅみたいにきれいなたまご	真珠みたいにきれいな卵	毎年8～9月頃にメスは300～700個の数珠状につながった真珠のようにきれいな卵を産みます。まるでネックレスです。又シと呼ばれる一番強いオスに巣穴の中で守られながら10月頃にふ化して、1～2月頃まで過ごした後、たくさんの兄弟とともに巣立ちます。
す	すいめんからはなさをだすのはこきゅう	水面から鼻先を出すのは呼吸	成体（大人）になると人間と同じく肺で呼吸します。数十分から数時間置きに水面から鼻先を出して息を吸います。耳を澄ませるとスーっという、空気を吸う音が聞こえます。
せ	せかいさいだいきゅうのりょうせいるい	世界最大級の両生類	カエルと同じ両生類です。その中で日本のオオサンショウウオは最大級の大きさです。成長すると150センチにまで大きくなります。
そ	そばにいてもむはんのう	そばに行っても無反応	視力があまりよくないと言われていています。どのぐらい見えているのかははっきりはわかっていませんが、気付いていないだけなのか、人を見ても動じません。
た	たろうとはなこ きょだいおみこし	太郎と花子 巨大おみこし	岡山県真庭市には、オオサンショウウオの神社があり、年に1度、お祭りの日には約5mの大きさの巨大なおみこし「太郎」と「花子」が活躍します。
ち	ちゅうごくとあめりかにもなかがいる	中国とアメリカにも仲間がいる	日本以外に中国にはチュウゴクオオサンショウウオ、アメリカにはヘルベンダー（アメリカオオサンショウウオ）というオオサンショウウオの仲間がいます。世界中で3か国にしかいません。（絵札は日本と中国の交雑種）
つ	つかまえたらはなさないすどいは	捕まえたら離さない鋭い歯	大きな口には上に2列、下に1列、カミソリのような鋭い歯があり、少し触れただけでスパッと切れます。自分から人を襲うことはありませんが、口元に手を近付けるなどして噛まれると大ケガをします。
て	てのさきはざらざらのすべりどめ	手の先はザラザラの滑り止め	赤ちゃんみたいな手の先は他の部位に比べてザラザラしていて、岩などを登ったり、移動するときに滑り止めの役割をしています。（参考：「あ」赤ちゃんみたいな手）
と	ときとおなじとくべつてんねんきねんぶつ	トキと同じ特別天然記念物	国の特別天然記念物に指定されています。芸術上または鑑賞上貴重で、学術的にも貴重なもののうち重要なもので、国家的、世界的に価値が高いものが特別天然記念物です。ややこしいですが、日本だけでなく世界にとっても、とても大事な動物なのです。

な	ななじゅうねんいじょういきるといわれている	七十年以上生きるといわれている	正確な寿命はわかっていませんが、100年以上生きると言われています。長生き過ぎて1人の研究者では調べることができませんので、色々な人たちが協力して調べています。
に	にほんのぎふけんからにしにいる	日本の岐阜県から西にいる	本州の岐阜県から西、四国の一部、九州の一部にしか生息していません。
ぬ	ぬめぬめがだいめいし	ヌメヌメが代名詞	ヌメヌメした皮膚はこんにやくに似た肌触りをしています。けど、見つけても触ってはいけません。（参考：「み」見つけても捕まえてはいけません）
ね	ねんえきはさんしょうのにおいがするらしい？	粘液は山椒のにおいがするらしい？	怒ったり興奮すると体の表面から白い粘液を出します。この粘液が山椒のにおいに似ているから「サンショウウオ」の名が付いたという説がありますが……。乾くとボンドみたいに固まり、服などに付くとなかなか取れません。
の	のんびりとくらしていききたいこれからも	のんびりと暮らしていききたいこれからも	環境汚染や河川工事などで、生息場所が減りつつあります。これからのんびり暮らせるように、豊かな自然を守っていきましょう。
は	はんざきはおおさんしょうおのふるいなまえ	ハンザキはオオサンショウウオの古い名前	半分に裂いても死なない、大きな口を開けると半分に裂けているように見えることからハンザキとも呼ばれています。その他にもハジコイ、アンコウなど多くの別名も持っています。
ひ	ひっさつわざはですろーる	必殺技はデスロール	一度噛み付くと雷が鳴るまで離さないとも言われますが、噛み付くと体をぐるぐると回転させて噛み切ろうとします。この行動はデスロールと呼ばれ、ワニやアナゴなども同じ行動をします。
ふ	ふくをぬぐみたいにだっぴ	服を脱ぐみたいに脱皮	時々、全身の脱皮をします。大きくなるためではなく、古い皮膚の交換で、まるで着替えているようです。薄い灰色の皮膚が浮いてくると口を使ってすると上手く脱ぎ、そのままパクリと食べてしまうので、なかなか目撃することができません。
へ	へびみたい、わにみたい、とかげみたい	へびみたい、ワニみたい、トカゲみたい	横から見るとへび、川にいる姿はワニ、上から見るとトカゲによく似ていますが、これらは全て「は虫類」で、オオサンショウウオは両生類です。（参考：「せ」世界最大級の両生類）
ほ	ほんきでおよげばけっこうはやい	本気で泳げば結構速い	驚いたり、危険を察知すると、体全体を上手く左右にくねらせ、速く泳ぐこともできます。
ま	まちぶせてめのまへのえものをとらえる	待ち伏せて目の前の獲物を捕らえる	川の魚などに比べるとオオサンショウウオは、追い掛けても泳ぎではかきません。岩のようにじっと待ち、目の前を動くものが通ったら大きな口を開けて、すごい速さで水ごと一気に吸い込みます。一緒に小石などの異物を吸い込んだときは上手く吐き出します。

み	みつけてもつかまえてはいけません	見つけても捕まえてはいけません	文化財保護法という法律で保護されています。見つけても許可なくさわったり捕まえたりすることはできません。
む	むかしからかわらないすがた	昔から変わらない姿	オオサンショウウオは、約3,000万年前から現代までほとんど姿・形を変えていないことから「生きた（生きている）化石」とも呼ばれます。
め	めはどこにあるのかな	目はどこにあるのかな	1メートルほどのオオサンショウウオでも、目は2ミリほどの大きさしかありません。視力はあまりよくないと言われています。
も	もう1かい、なんどおちてもあきらめない	もう1回、何度落ちてでも諦めない	堰や大きな岩を超えて上流を目指すため、何度も落ちては登ります。頑張りすぎてケガをするオオサンショウウオもいるほどです。
や	やまおくにひっそりいるとおもわれがち	山奥にひっそりいると思われがち	人も寄り付かない山奥にいると思われているようですが、標高200～500メートルの、人の家や田畑、自然が混在する里山と呼ばれる場所に生息しています。
ゆ	ゆっくりとせいちょうします	ゆっくりと成長します	最大で約150cmにまで成長するオオサンショウウオですが、長生きする間にゆっくりと成長します。しかし、中には数年経っても全く大きさが変わっていない個体や1年で10cm以上大きくなる個体もいます。川で調査するときには絵札のような記録簿を付けて1個体1個体の記録を残します。
よ	よるはかりのじかん	夜は狩りの時間	夜になると、動きが活発になり、多くのオオサンショウウオが隠れ家から狩りに出かけます。（参考：「く」暗くて狭い場所が好き）
ら	らくだのごぶみたいにしっぽにしばうをたくわえる	ラクダのコブみたいに尻尾に脂肪をたくわえる	尻尾の中でも特に根本の部分に脂肪などの栄養をたくわえ、数か月何も食べなくても生きられます。尻尾をケガすると水面に油が浮いてくるほどです。
り	りょうせいのい、こどものあいだはえらこきゅう	両生類、子どもの間はエラ呼吸	幼生（子ども）の間は頭の両横にあるひらひらしたエラで呼吸して水中から酸素を取り入れます。
る	るーるをまもってかわあそび	ルールを守って川遊び	きれいな川にしか生息しません。川遊びをするときはゴミなどは持ち帰り、自然を守りましょう。
れ	れんしゅうしてだんだんかりがうまくなる	練習してだんだん狩りが上手くなる	産まれて約3～4か月で巣立ってからは、過酷な川の中を自分の力だけで生きていきます。小さい間は昆虫の幼虫などを食べますが、最初から上手く捕らえられるわけではありません。失敗して上手になっていきます。
ろ	ろじょうでみつかることもある	路上で見つかることもある	特に繁殖の時期（8～9月）に近づくると活発に行動するようになります。上流の巣穴を目指して高い段差を迂回するときなど、ときどき道路に出てしまい見つかることがあります。驚きますよね。
わ	わかっていないふしぎなせいたい	わかっていない不思議な生態	視力や寿命など、生態には不思議でわかっていないことが多いのがオオサンショウウオです。これも魅力の1つかもしれません。